



ゆたか福祉会キャラクター
ゆたかめくんとみらいちゃん

障害者の ゆたかな未来をめざして



富田 克郎さん



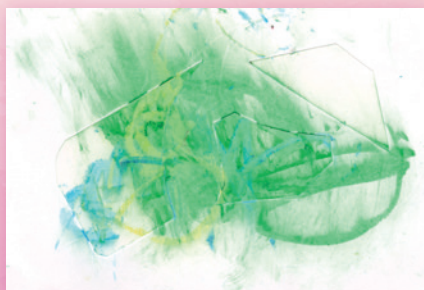
磯口 はるみさん



浦上 里緒さん



山口 朋絵さん



中西 巧さん



深谷 博之さん

「点と線の削り出し」 ゆたか作業所 デイ現場 ※紹介が11ページにあります。

CONTENTS

- ▶ 私たちの実践
仲間たちの高齢化とその人らしく「暮らす」を支える P2～4
- ▶ 4.15 職員集会 P5～7
- ▶ 2023 年度正規採用職員紹介 P8～9

2023年5月10日 毎月1回10日発行 一部100円（法人会員・賛助会員は会費の中に購読料を含みます）

発行 / 社会福祉法人ゆたか福祉会 〒457-0852 名古屋市南区泉楽通四丁目5番地3
TEL 052-698-7356 FAX 052-698-7358 <http://www.yutakahonbu.com/>



愛知県ファミリー・
フレンドリー・マーク

ゆたか福祉会

検索

シリーズ

私たちの実践

仲間たちの高齢化とその人らしく「暮らす」を支える

その1

住み慣れたホームからの旅立ち

仲間とその家族の願いに寄り添う

地域生活支援事業所まーぶる 西原 恵美

■はじめに

昨年度、管理者をしていた「ゆたか生活支援事業所みなみ」では、「仲間の看取り」に関わる支援を行ってきました。成年後見制度を活用されてきたケースであり、ゆたか福祉会内などの事業所でも「仲間の高齢化」について考える機会が増えてきている今、改めて「仲間の看取り」「成年後見制度の活用」について考えるきっかけになればと思います。

■「みのり」とともに

Yさんは長年「みのり共同作業所」に通所され、「ホームみのり」の開所と同時に生活を送られてきました。ご家族はここ数年で相次いで亡くなられ、高齢期に入ると「長時間の作業が疲れる」という理由で、作業所に隣接する「デイサービス宝南」を併用されるようになりました。また、ご本人の「出来るだけ長く、作業所の仕事を続けたい」という願いを受け止め、毎日通所するのではなく、毎週木曜日はホームでゆったり過ごすようにしました。日中の支援体制を作り、職員体制が取れないときはエールの仲間たちと過ごして頂くこともありました。お昼ご飯で、大好きなマグロ丼を美味しく食べられる姿が印象に残っています。

■急激に現れた体調の変化

そんなYさんの体に異変が現れたのが、昨年の夏頃のことです。急に食欲がなくなり、好ききだけたまぐる丼が食べられなくなり、体重も減少。また重度の貧血となり、病院へ受診し精密検査を受けるところ、末期の胃がんと診断を受けました。「余命も3か月程度」と宣告され、そのまま緊急入院となりました。

まだまだ世の中はコロナ禍にあり、入院中の面会は許されず、「淋しい思いをしていないか」「苦しい思いをしていないか」と、ただただ心配することしか出来ない日々が続きました。

■退院後の生活を考える

「また作業所に
行きたい」

治療を続け、腫瘍が出来ている部分にネットをかけ、食べ物が通過しても問題がないような処置を行って頂きました。病院からの「もうこれ以上の治療は行うことが出来ない」との判断で、Yさんは大好きだったホームに戻り、余生を送って頂くことにしました。

入院が長引き、体力的にも厳しく、起きているのがやっとの状況でしたが、Yさんの願いは「のりへ出かけた」ということでした。作業はとても出来るそうにない状況でしたが、作業所を訪問する機会を作って頂きました。

ホームではあまり元気のなかったYさんですが、作業所ではいつもの感覚が戻ったのか、以前と同じように洗濯物を干す作業を嬉しそうに行ってくれたそうです。「Yさんにとって作業所で仕事をするのが、生きる力になるのではないか」と思わせてくれた出来事でした。しかし、「また作業所に行きた



い」と願われていたYさんですが、これが最後の通所となりました。

■ コロナの中での再入院 く看取りもできずにく

その後は思うように食事がとれず、体重も減少し、血便も続き、再入院を余儀なくされました。お見舞いに出向いても、Yさんに会うことが出来ず、何もしてあげられない日々が続く、状態が徐々に悪化していきました。そして3か月を待たずに、病院で一人きりでお亡くなりになりました。

コロナ禍で、病室への出入りが出来ず、最期の瞬間を看取つてあげることが出来なかったことが、一番悔やまれます。

■ Yさんのお母さんと 成年後見制度

Yさんのお母さんは1年程前に、特別養護老人ホームで亡くなりました。看取りは出来なかったものの、最期にお母さんに会うことが許された為、担当職員と共に会いに出かけたことを思い出します。

お母さんが亡くなり、葬儀をあ

げ、立派に喪主を務めたYさん。お母さんも成年後見人制度を利用してされており、施設退去の手続き、葬儀の手配等すべてに後見人が関わり、行って頂くことが出来ました。Yさんへの負担は特になく終えることができました。

■ Yさんと成年後見制度

お母さんの仏壇を購入しようと思われたYさん。インターネットで見つけたピンク色の仏具がそろうた仏壇セットをお勧めすると「これでいいわ」と購入されました。居室のチェストの上に置かれ、いろいろな職員に「仏壇、買ったんだわ」と嬉しそうに見せていたそうです。仏壇に手を合わせ、お母さんの供養をされていたYさんでした。

そんなYさんの葬儀は預貯金もあり、「お花でいっぱい葬儀に出来ないか」と思っていました。しかしそんな矢先、後見人の方より「生前にご本人、またその家族より『このような葬儀を』と希望が出されてない場合は決まりがある」とお話がありました。それは「最低

限度の葬儀の執行」というものでした。斎場で行うと「お経をあげてくれるお坊さんもない寂しい葬儀になってしまう」ということも分かりました。「何とかYさんが大好きだったホームから葬儀が出せないか」とお願いし、葬儀を行うことが出来ることになりました。

ただ、葬儀を行う上で一番の課題は「同居する仲間たちが、Yさんの死を受け入れることが出来るか」「遺体を安置することで、怖がることはないか」でした。入居者ご家族と仲間たちに説明を行い、ご理解が得られるよう努め、どの方からの反対もなく、「ホームから送り出してあげよう」と、温かい言葉を頂くことが出来ました。

■ 住み慣れたホームで 皆さんに囲まれながら

Yさんのご遺体は病院よりホームに戻り、火葬場が混雑しているとのことで、2日間ホームに安置されることになりました。これまで関わって下さった法人内の職員が大勢ホームに足を運び、最期のお別れをすることが出来ました。

大好きだったマグロ丼を購入し、棺の中に。

また信心深いYさんであった為、「何とかお坊さんにお経をあげてもらうことが出来ないか」と思いました。葬儀社の方に相談すると、「こつこつとした葬儀の時に来ていただく有償ボランティアのお坊さんがいらっしゃる」とご紹介頂き、作業所とホーム職員でカンパを集め、おいでいただくことが出来ました。



食堂に設置された祭壇 ～たくさんの花に囲まれて～



大好きだった「まぐる丼」もお供えしました



男性職員の手で霊柩車へ

納骨式



職員が見守るなかで ～お母さんとご一緒に～

たくさんのきれいなお花に囲まれ、穏やかな顔をされていたYさんが今でも目に浮かびます。

出棺後、大好きだった「みのり共同作業所」の前を通り、作業を共に行ってきた仲間や職員にも見送られ天国に旅立たれました。骨壺に入り小さくなったYさん。お母さんの骨壺と並べ、49日まで生前生活していた居室にて供養させて頂きました。今は成年後見人の方に手配して頂いた呼続霊園の方に、お母さんと一緒に眠られています。

■ Yさんが教えてくれた「財産」を次の支援に

Yさんは、成年後見制度を利用してきていました。定期的に見え支援員さんがYさんを訪ね、預貯金の管理や身上保護といった諸手続きにも関わって頂きました。病気が発覚してからも、入院手続きや病状説明に何度も病院に足を運んで下さいました。あつという間に亡くなられてしまい、またコロナ禍でもあり、ご本人から葬儀についての思いや「最期に誰に看取られたいか」等、直接、意思確認する機会が持てませんでした。成年後見制度には多くのメ

リットもありますが、「デメリットもあるのだな」ということが分かりました。

このことをきっかけに、70歳を迎えられた仲間に「エンディングノート」の作成を進めたいと思います。その年々で感じることや思うことも変化するかもしれないが、個別支援計画の後期モニタリングに合わせ、1年に1回、エンディングノートを更新していけるようにと検討しています。

「ホームで仲間を看取る」ことは、多くの医療行為が発生します。医療従事者が常駐しておらず、職員が毎日入れ替わり、夜間支援の

多くを非正規職員の皆さんに担っていたにいたる現状では、「実際、看取りは難しい」と考えます。Yさんのように、ホームでギリギリまで生活を送り、最期はホームで葬儀をあげ、親しい仲間たちに見送られながら旅立たれる。「ホームですつと生活を送りたい」と話されていたYさんの願いに叶った「看取り」になったのではないかと思っています。

今後も日々、仲間やご家族とのコミュニケーションを大切に、「その人らしさ」を大切に、支援を続けていきたいと思えます。最後に、Yさんに多くのことを学ばせてもらい、また、たくさんの楽しい思い出をもらいました。

Yさんありがとう。天国でも美味しいまぐる丼がいっぱい食べられるといいね！



4.15 職員集会在名古屋国際会議場

4年ぶりに「対面」での1日研修 初めて経験する職員も

当日、会場には150名の職員が参集しました。コロナと向き合った3年間を振り返ると感慨深いものがありました。会場のガイドラインに添って検温と手指消毒を行い、マスク着用と黙食を呼びかけての実施。「対面での良さを少しでも実感して頂けるように」と企画した職員集会です。以下、内容を報告します。

〈午前企画〉

理事長挨拶



理事長は冒頭で、政治と社会福祉の関係について述べられました。本山革新市政が誕生した1973年から3期12年、名古屋の福祉が飛躍的に発展し、ゆたか福祉会の事業もこの時期、1973年のみのり共同作業所認可に始まり、点から線、面へと展開したことを。

任期満了直前の1985年1月、市民団体が2万6千筆の署名を携え市長と面会。新聞では「在宅重度障害者に朗報」「デイサービスに前向き



▲ウクライナカラーの缶バッジ

と報道されたこと。そしてその運動が1985年4月、名古屋で初めての身体障害者デイサービス事業「デイサービスみなみ」の開所へつながったと話されました。

続いて、この間の世界と日本の動向として、終わりのみえないウクライナ戦争、トルコ南部・シリア大地震、タモリ氏の「新しい戦前」発言、

そして大江健三郎氏等の名前を挙げられ、偉大な先人から学ぶ重要性について語られました。そして「コロナに対応しつつ」「福祉村等の重点課題をすすめ」「赤字対策に尽力を」と、挨拶を締めくくられました。



「ゆたか」と出会って29年目の自治会連合会石橋会長(左)と「デイサービスみなみ」とともに48年の保護者連合会藤田会長(右)

辞令交付式・資格取得者紹介

参加できなかった2名の方を除き8名の皆さんが登壇され、理事長から一人ずつ辞令が手渡されました。

また昨年7月以降に正規職員として入職された2名の方も加わり、一人ずつ「ゆたかとの出会い」や「今後の抱負について」スピーチを行いました。続いて今回、社会福祉士と

介護福祉士に合格された皆さんも登壇され、資格取得の動機や今後への思いを語って頂きました。

2023年度 事業計画の報告

後藤法人本部長からは、今年度の重点課題、法人の財政状況、消費税に関する裁判、防災対策の4点について報告が行われました。

重点課題では「地域生活支援拠点事業所まーぶる」の実践と事業の展開、キラリンとーぶの新たな生活と運営、緑区内事業所の再編整備の検討準備、ゆたか通勤寮の今後についての検討、日中一時支援事業の開始と3法人連携事業の推進の6点について報告が行われました。

厳しい法人財政の要因としては、新型コロナウイルスや物価高騰の影響、福祉村の名古屋移行と増築工事、利用者数・利用率の減少が挙げられました。3事業分野の収入比較や日中活動2事業の収入推移、利用者の年齢階層の推移なども分かりやすく図で示され、法人や各事業所での対策が提起されました。

〈午後企画〉

テーマ

海外の人たちと共に働く
多文化共生を考える

▼各事業所からの報告

●キラリンとーぶ

映像で、2022年6月から技能実習生として働くお二人の様子が紹介されました。

イエンさんとアインさんからは、利用者さんと関わることの楽しさや、やりがい、職員の車やタクシーで買い物に出かけたり、介護技能実習評価試験に合格したことなどが話されました。また地元の方のご協力や、日本語学習会を行っている様子なども紹介されました。

●まーぶる

ベトナムの大学を卒業後、フエ科大学のプログラムを知り申し込んだフォンさんとトウイさん。

「今は日本語のレベルが上がったので、クラスが変わり1月から遅番をしている」「職員の皆さんが優しく教えてくれるので、安心して働けるようになった」「特定技能の試験に合格して、7月からフルタイムで

働らせるようになる」と報告されました。そして「日本で学んでベトナムの社会福祉の発展に貢献したい」と話されると、会場から大きな拍手が送られました。

●ゆたか希望の家

2022年12月から技能実習生として働いているゴックさんとドウツクさんから、対面で自己紹介と現状報告がありました。緊張しながらも仕事のやりがいや、周囲の職員との良好な関係、また社会ルールの違いや買い物での支払いなど、日本での生活で苦労したことが話されました。

また、希望の家で実践している「やさしい日本語」を紹介しました。丁寧なコミュニケーションとして、仲間への日常的な支援でも活用できると思います。

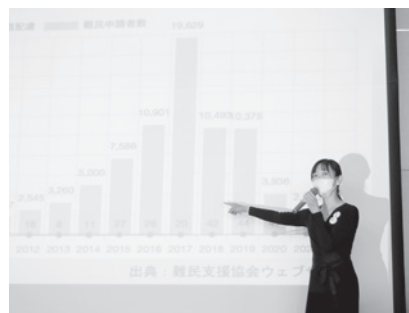
●ゆたか作業所

今年2月から週3日、デイサービス現場で働いているアフガニスタン出身のファルザトさんを映像で紹介しました。

現場での関わりや食事介助の様子、また食事後にはいつもは車椅子利用の方が、ファルザトさんと一緒に歩行支援を行っている様子をご覧いただきました。物腰が柔らかいお

人柄であり、日常的には片言の日本語でのやりとりであることもお伝えしました。

▼講演



講師 神田 すみれ 氏
愛知県立大学
多文化共生研究所 協力研究員

先生はまず、日本社会に暮らし、働く海外の皆さんの人数は年々増えていること。そして雇用する側、雇用される側双方において「コミュニケーションが共通の課題である」と話されました。その為に大事なことから「共通言語をつくること」を挙げられ、「やさしい日本語」と「ハサミの法則」を紹介されました。

「やさしい日本語（ハサミの法則）」

- ハ→はつきり言う
- サ→最後まで言う
- ミ→短く言う

吉開章氏提唱

「ウクライナ避難民とアフガニスタン避難民の受け入れ」については、「避難民」と「避難者」の違いに触れられながら、ゆたか作業所で働くファルザトさんのメッセージを紹介されました。また「安心して生活が送れるような協力や支援を」と述べられ、多文化共生の背景にある3つの人権理念として「文化の選択の自由」「平等」「共生」について話されました。



▲クッキーもウクライナカラー

神田先生からのメッセージ

ゆたかで勤務するベトナムや、アフガニスタン出身の皆さんの声や仕事の様子を知ることができ、集会に参加した皆さんがそれを知る機会となり、素晴らしい時間でした。

日本ウクライナ文化協会の川口リュドミラさんからは、東海地域に避難するウクライナ避難民の現状をお話いただき、たくさんのご支援と応援のお声をいただきました。

異文化背景の人たちと、地域で共に暮らし、共に働く社会の実践がゆたかでは始まっていることを感じる場でした。

東日本大震災から12年 被災地支援活動の 経験を次代につなぐ

映画上映前に、きょうされん愛知支部事務局長の今治さんから、当時きょうされんが行った被災地支援活動についての報告と、ゆたか福祉会から支援に入った3名の皆さんから、当時の思いや活動内容等の報告を行いました。皆さんのメッセージを紹介します。

▼私と被災地支援活動

干支が一回り

くわすれないこと・つなぐこと

つゆはし作業所 石田和久

震災から12年、入職して干支が一回りしました。被災地支援に向かうその日、私は研修時のスーツからジャージに着替え、トラックに乗って現地に入りました。

被災地の方々が不安な中も我々に接するときの温かさや、施設訪問での真摯な対応には感謝しかありませんでした。被害にあった家の片づけに行ったら、準備していただいたおにぎりの味は忘れることはありません。時間が経つと記憶は薄れていきます。震災で忘れていけないことをつなぐのは、現地に入った人間の役割だと思います。

震災を忘れない 自分にできることから

あかつき共同作業所 佐野浩之

東日本大震災から12年が経過しましたが、被災地の光景は忘れることができませぬ。散乱した墓や飛行機、遺体留置所への案内看板、鼻につんとくる異様な匂い。『星に語りて』の映画を観ると、より当時支援に行った時の熱い思いがよみがえってきます。

「上映を自分たちだけのものにしてはいけない」、「障害を知らない人たちにも観ていただき、一緒に防災のことや障害のことを考えるきっかけになって欲しい」と思います。私たちにできることはまだあるはずです。

今後起きるかもしれない 大きな災害に向けて

みのり共同作業所 佐竹郁哉

有事の際には、ゆたか福祉会が中心となって、南区内における障がいを持った方々の安否確認などの動きを取っていく可能性もあります。

この映画は地震が起きた直後の人間ドラマが描いてあり、エンターテインメントとしても観ることができ、学べる映画です。

障害を持った人たちと地震と地域社



会。直後はもちろんです。その後どんな問題が起こったのか、そういうことを意識して観ていただきたいと報告しました。

職員集会を終えて

今回の職員集会の特徴は、より一層、幅広い視野から学ぶ機会になったことです。

理事長の「終わりの見えないウクライナ戦争」の話と「海外の人達と共に働く」をテーマにした神田先生の講演。そしてウクライナのリュドミラさんに直接お目にかかり、祖国に思いを馳せて作られた品々も紹介して頂きました。

ベトナムの皆さんや、アフガニスタンのファルザドさんの映像やメッセージは、「星に語りて」鑑賞との共通項として、より身近に「自分事」として、「海外で働くこと」や「東日本大震災」を感じる機会になったのではと思います。アンケートでも

「何かできることはないか」「できることを取り組んでいきたい」という「声」が、数多く聞かれました。

またベトナムの皆さんの「支援が楽しい」「笑顔が嬉しい」「この仕事はやりがいがあり、価値のある仕事」という報告への反響や、「ハサミの法則」をコミュニケーションに役立てたい」という感想も多数、寄せられました。

もう一つの特徴は、様々な企画を通して皆さんの職員が檀上に上がり、自分の言葉で想いを伝えたことです。介護福祉士を取得した5年目の職員は「作業所で3人が一緒に勉強して合格した。勉強が苦手な僕でも頑張れた。入職した皆さん、入って頂いてありがとうございます。僕もずっと勉強中です。気づきを大切にこれからも頑張ってください」とエールを送りました。

ラジオ体操第1のBGMでお手本を見せていただいたケアサポート宝南の皆さん、ありがとうございます。「参加者が共に研修を創る」そんな企画をこれからも準備していきたいと思えます。

文責 研修部長 向 幸子



2023年度 正規採用職員紹介

ゆたか作業所
しみず みずき
清水 瑞己



☺ バスケットボール、旅行

ゆたか福祉会との出会いは、就職活動中の説明会です。実習の中で、仲間の思いを尊重しながら支援されているところを見て「私もゆたか福祉会で働きたい」と思い入職をきめました。

不安もありますが、仲間の気持ちに寄り添い、関係を築いていけるように、仲間や、先輩職員の方から学びながら、精一杯頑張っていきたいと思っています。

今年度は10名の皆さんが、正規採用職員として新たなスタートをしました。2月にはオリエンテーション、3月には4日間の初任研修を実施し、今回は初めて法人内の施設見学研修も行いました。

年齢も経験も職種も様々な皆さんが、これから共に学んでいきます。私たちも皆さんの「初心」に自らを振り返り、自己肯定感を大事に働いていきたいと思っています。

☺ 趣味・好きなことをお聞きました

ゆたか希望の家
ふじい まさたか
藤井 真誉



☺ 家庭用ゲーム、温泉、カラオケ

コロナの影響で前職を退職し、前職から頂いた求人案内にゆたか福祉会が記載されていました。以前は工場部品を相手に仕事をしてきましたが、「今度は直接的に人を支えていくという異なった職場で働いてみたい」という想いで応募し入職しました。

これからは正規職員として実務に取り掛かり、仲間の支援も今までと変わらず、丁寧に行っていきたいと思っています。責任を持って信頼関係の構築を目指していくことを目標としています。

リサイクル港作業所
おおはし たくま
大橋 拓真



☺ アーチェリー観戦、読書

ゆたか福祉会との出会いは、大学の実習先としてお世話になったことです。ゆたか福祉会での利用者と職員との間の雰囲気や、仲間として共に歩む姿勢を見て「ここで働きたい」と思い至ったため、ゆたか福祉会に入職させて頂くこととなりました。

未熟ゆえに至らないところも多々あるかと思いますが、仲間との作業やコミュニケーションを通して、仲間のため、ご家族のためとなる職員になれるよう、これからも精進していきたいと思います。

ゆたか生活支援事業所みなみ
とがし ゆい
富樫 結衣



☺ 温泉・カフェ・ラーメン巡り、ドライブ etc

ゆたか福祉会との出会いは、アニマルセラピーの事業を行う方からの紹介でした。やりたい仕事への理解をして下さり、親身になってくれる方々がたくさんいる職場は「他にない」と思い、入職を決めました。

福祉とは今まで全く関わったことがなく、不安な気持ちでいっぱいですが、楽しく生き活きとした生活を支えていけるよう、なかまに寄り添い、先輩職員に学びながら、精一杯頑張っていきたいと思っています。

ゆたか生活支援事業所なるお
いしだ ゆうみ
石田 裕美



☺ 料理、食べること

友人の紹介で、きょうされん愛知大会にボランティアで参加させていただきました。その後、ご縁があり、パート職員として働かせていただけていました。

自分の今までの経験を活かし、なかまと一緒に楽しいことも苦しいことも分かち合えるような職員になっていきたいです。よろしくお願ひします。

みらいろ
こばやし りょうた
小林 稜汰



☺カフェ巡り、スイーツ、
野球観戦

ゆたか福祉会とは、大学4年で就活を始めた際に
出会いました。在学中の経験より「支援の仕事をし
たい」と考え、いくつかの説明を聞いている中で、
とても丁寧でわかりやすく「ここなら安心して、で
きそうだ」と感じたのがゆたか福祉会でした。

支援についてはまだわからないことも多く、障が
いへの理解も充分ではないかもしれませんが、なか
まや周りの職員の方々とコミュニケーションをしつ
かり取り、仲良く根気強く、何事にも向き合っ
て理解を深めていけたらと思います。

まーぶる
すずき しょうき
鈴木 翔貴



☺バスケットボール、
犬の散歩、アニメ

ゆたか福祉会との出会いは、親戚の方がゆたか福
祉会で看護師として働いており、就職の相談をしに
行ったのがきっかけです。介護現場は初めてになりま
すが、いままで培ってきた知識と経験を活かして、仲
間が安心安全に暮らしていけるよう、医療的支援をし
ていきたいです。

また、障害のある方とはかかわってきたことがない
ので、これから日々仲間に勉強をさせてもらい、先
輩方の胸を借り1日でも早く成長できるよう励
みたいと思います。

キラリンと一ぶ
いま よしじ
今 吉司



☺お菓子作り、
コーヒーを飲むこと

地元の方のご紹介で2年前の4月から福祉村でア
ルバイトとして働かせて頂いております。それまでは
飲食業に携わっており、福祉の仕事は初めてで戸惑
うことも多く大変でした。そんな中、まわりの職員さ
んの温かいお言葉や支えにより、今では不安や悩みも
少なくなり前向きに仕事をする事ができています。

利用者さんは皆さん純粋で、いつも笑顔で迎えてく
れます。私も利用者さんにとってそんな存在でいら
れるよう、精一杯頑張っていきたいと思います。

デイサービスなぐら
かなだ たえこ
金田 妙子

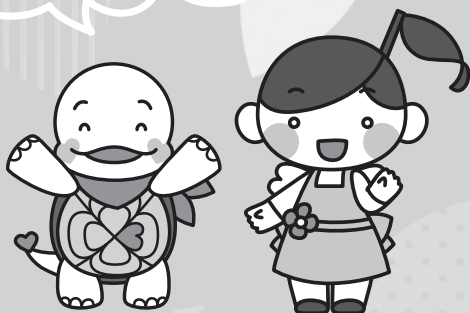


☺カラオケ、食べること

昨年、介護支援専門員の資格を取得しました。知
識と経験を活かし「自分自身のスキルアップをはか
りたい」と思っていたところ、デイサービスなぐらを
紹介していただいたのがゆたか福祉会との出会いの
きっかけでした。

これまでパートとして働いてきましたが、人生の大
先輩である利用者様と日々ふれあい、会話をする中で、
いつもさまざまな学びがあります。感謝の気持ちと
初心を忘れず、信頼される職員になれるよう努
めていきたいです。

おめでとうございます!
これから
よろしくお願いします!



グループホーム宝南の家
いしだ あやの
石田 彩乃



☺読書・体を動かすこと

就職活動中に、ゆたか福祉会の見学に行った際、
職員の方やご利用者の方々の雰囲気の良いを感じ「私
も一員として働きたい」と思ったのがきっかけです。

分からないことや不安に思うことも多くありま
すが、先輩職員の方から沢山のことを吸収し、一つ一つ
経験を積んでいながら日々学んでいく姿勢を忘れず
にいたいと思います。ご利用者の方々が、日々楽しく
自分らしく暮らしていただけるよう、精一杯頑張っ
ていきたいです。

新所長紹介



ゆたか生活支援事業所みなみ 杉本雅明

団体の先頭に立って引っ張っていくようなタイプではありませんが、なかまや職員が暮らしやすい、働きやすい環境が作れるように出来ることを一つ一つやっています。

事業所みなみは職員が大きく入れ替わり、若い職員集団となりました。経験という部分ではまだまだ未熟な点も多いかと思いますが、今後の可能性が大きい事業所だと思っています。私も含め、なかま、職員それぞれが様々なことに挑戦できるような環境を整備できたらと思います。長い目で見守っていただけたらと思います。



みらいろ 山崎 真由美

ゆたか福祉会に入職し、今年で13年目となります。2019年「みらいろ」開所から副所長として従事してきました。今年度は今までに味わったことのない“緊張感”を感じながら4月を迎えました。

前年度までは“所長”の後ろ盾があり、安心感があったことで、業務に向き合えてこられたのだと改めて実感しました。所長として判断を求められる機会も多くなりますが、共に学び成長し続ける、そんなチームを作っていきたいです。

新副所長紹介



ゆたか生活支援事業所あつた 森山 祐吏

今年度から副所長の役割をいただき、新たな挑戦や自分自身の大きなステップアップにワクワクするような気持ちでいっぱいです。

現在務めさせて頂いている事業所あつたでは、今年度から職員体制が大きく変わりました。昨年度以降の管理職員の退職や異動により、不安は残りますが、事業所を兼務して下さる所長含め、助け合いや心遣いを大切に、事業所あつたを支えていきたいと思っています。

また副所長として意識し、携わっていききたいと思っています。



ゆたか生活支援事業所かさでら 片桐 由麻

「ゆたか」に関わり働く中で、振り返るとたくさんの仲間や職員の顔が思い浮かびます。たくさんの仲間やご家族の皆様、職員の皆様が私を支えてくださり、ここまで成長させて頂いたと感じます。

今年度からは「支えてもらう側から支えていける側」へ、そして仲間との時間を大切に、全体を見て動ける職員を目指して進化していきたいと思っています。また、マスクの裏側に隠れる笑顔も忘れずに守っていきます！今年度からもどうぞ、よろしくお願い致します。



キラリンとーぶ 金澤 友

福祉村の2つの施設が統合し1つになり、自分自身も新たな業務を覚えていかなければなりません。このような中で、これまでとは違った仲間の生活や活動の構築、新たな仲間や職員の集団作りが必要になります。「非常に大変な時期に副所長になったな」と感じています。

そんな重い責任を感じつつも、一方で新しいものを作り上げていくことに携わることができるという楽しみも感じています。ストレス発散をしながら、自分らしく頑張っていこうと思います。



3月

- 3日(金) 就労支援事業推進委員会 / 食と健康推進委員会
- 7日(火) 保護者連合会定例会
- 8日(水) 法人安全衛生委員会 / 作業改善ゼミ
- 9日(木) 消費税更正請求訴訟第3回口頭弁論
- 10日(金) 広報・ホームページ編集委員会
- 13日(月) 事業運営推進会議
- 14日(火) 社会福祉士相談援助実習指導者打ち合わせ / 強度行動障害者支援者養成研修(基礎)~15日
- 15日(水) 2023年度正規採用職員初任研修(~16日)
- 17日(金) 権利擁護・虐待防止委員会 / 新管理職研修
- 21日(火) 理事会
- 22日(水) 所長会議
- 23日(木) 2023年度正規採用職員初任研修(~24日)
- 25日(土) 評議員会
- 28日(火) 2023正規採用職員「援助担当者会議」 / 研修部会議
- 29日(水) 副所長会議

一般寄附(3月)

水野 敬美

賛助会員新規加入者・更新者「芳名一覽」

順不同敬称略

(2月16日~4月7日 手続き分)

- 岩崎 武利
- 中村美代子
- 川端 幸代
- 石崎 満
- 西野 裕之
- 石井 義久
- 鈴木 智

※利用者・保護者・職員の皆さんからも多くのご寄附をいただきました。

ありがとうございました

表紙の作者紹介

「点と線の削り出し」

ゆたか作業所 デイ現場

富田 克郎さん 磯口 はるみさん 浦上 里緒さん
山口 朋絵さん 中西 巧さん 深谷 博之さん

デイ現場では2017年から月1回、講師の方がおいでになり、臨床美術講座を行っています。毎回様々な素材や道具を使って描きますが、仲間たちが描きやすいように、講師の皆さんが素材も道具も工夫し準備をされます。

今年6年目を迎える講座ですが、積み重ねの中で、同じ色や形しか描けなかった仲間が、別の色や形を描く姿が見られるようになったり、自由に大胆に力強く描く仲間がいたり楽しい活動の一つになっています。

今回の講座では、インクジェット紙のはがきにオイルパステルを使って描きました。一人一人好きな形・色を選び描いていった作品は、素材の面白さが画面に浮かび上がり、素敵な作品となりました。

広報・484号

2023年5月号(2023年5月10日発行)
定価1部100円
法人協力会員・賛助会員は会費の中に購読料を含みます
発行・編集 / 社会福祉法人ゆたか福祉会
印刷 / 株式会社東海共同印刷

法人協会会費・賛助会費・寄附金など福祉会への申し込み、ご送金は

法人協会会費 = 年間1口6,000円、
賛助会員(個人1口3,000円、企業団体等1口5,000円)

●銀行口座 名義はいずれも社会福祉法人ゆたか福祉会

- ・三菱UFJ銀行 柴田支店 普通預金 291-884
- ・中京銀行 鳴海支店 普通預金 150-425

●郵便振替口座 00820-8-54026 社会福祉法人ゆたか福祉会

その人らしく働く暮らし

Vol.108

仲間



「前向きに毎日をつみ重ねて」

リサイクルみなみ作業所 水上利明さん

水上さんは1994年に特別支援学校を卒業し、ゆたか作業所の利用を開始。リサイクル現場で働き

始め、今年で29年目になります。

在学中からスイミングや、習字、絵画教室、学童保育、青年学級など、様々な人たちと関わり経験を積み、またお母様は「自立できるように」と、洗濯やお風呂掃除などの家事を「本人に任せ、生活技術を伝えてこられました。2005年にゆたかホーム太陽へ入居、支援を受けながら身の周りの事に取り組む生活が始まりました。

作業は手選別ラインで異物を取り除いています。破袋機下の作業をマスターし、近年では減容機現場を希望され、パレットへのボール積みや、荷崩れ防止のラップ巻きにチャレンジ。その前向きな姿勢が評価され、2020年度は運営委員に任命されました。生産学習会の司会や作業開始

の声掛け、資源化目標の発表など、2期務めています。さらに昨年末には緊張しながらも、環境局支部の総会で代表としてカレンダーの訴えをしました。

2020年秋からお父様が体調を崩され、コロナ禍の為、入院ではなかなか会えず、とても心配そうにしていました。昨年5月にお父様が逝去されましたが、「頑張ろうね」と自分自分を励まし、今はお姉さんにご支援いただきながら、たまにホームからお母様のいるご自宅へ帰省しています。

ウルフィーやカピバラさんの会話を楽しみ、日々周りの皆さんを和ませて下さっています。

大野 歌織



いつも前向き
～減容機現場での作業風景～

職員

「ゆたか福祉会との 出会いと今後の目標」

みのり共同作業所 山本祥真



大学3年生の頃のサークル活動で、みのり共同作業所の所長さんと

知り合い、その時に「アルバイトをしてみないか」と声をかけていただいて、ゆたか福祉会と出会いました。

大学では認知症の高齢者の方の支援について学んでいたのですが、「将来は高齢者分野の支援ができる仕事に就きたい」と考えていました。

しかし、作業所やグループホームでのアルバイトを通して、仲間たちとの関わりの中での温かさを感じました。また働いている職員の方々がいきいきとしている姿を見て、自分も「この場所で働いてみたい」と思いました。

アルバイトとして2年、正規職員としては1年が経とうとしています。振り返ってみるとアルバイトの時はウエス現場に入り、作業の支援をしながら仲間たちと協力して商品を作っていました。

正規職員になってからは「けいさぎよう現場」に入り、初めはウエス現場との作業や支援の違いがあり、少し戸惑うこともありましたが、先輩職員の方々から現場の事を教えてもらいながら、今では仲間たちが楽しめる取り組みを考えることや、作業に取り組みやすくなるような治具を作成することで、自分自身も楽しんで仕事をしています。

今後の目標としては、昨年度から取り組んでいる「みのりクリーン隊」という法人内を対象とした資源回収の回収場所を拡大していきたいと考えています。また、スキルアップとしては介護福祉士の資格に挑戦したいと考えています。



久しぶりです
～喫茶店の取り組み～